

全専各連

全専各連ホームページから広報（PDF版）がダウンロードできます

No.132 2007年 3月16日

発行：全国専修学校各種学校総連合会

発行人：中込 三郎

編集人：菊田 薫

〒102-0073

東京都千代田区九段北4-2-25

私学会館別館11階

Tel:03(3230)4814 Fax:03(3230)2688



職業教育の日

全専各連第104回理事会を開催

「1条校化運動に関する宣言」を決議



「専修学校各種学校の振興のために全力を尽くす」と力強くあいさつする大西英男全専各連推薦参議院比例代表候補者



「1条校化運動」の推進に向け強い決意を述べる中込三郎全専各連会長

2月21日、東京都・アルカディア市ヶ谷を会場として、全専各連第104回理事会が開催された。出席者は委任状を含めて60名。

中込三郎会長が中央教育審議会教育振興基本計画特別部会へ出席のため、福田益和筆頭副会長が開式の言葉及び会長あいさつを行い、「今年度から2月の会議は理事会として開催するため、本日の議案は6月の総会で承認を得ることとなる。1条校化運動は、この1年が“剣が峰”を迎えることになり、重要な節目の年となるため、先生方のさらなるご理解と各都道府県のご協力をお願いして、中込会長に代わる会長あいさつとする」と述べた。

次に、寺門成真文部科学省専修学校教育振興室長があいさつを兼ねて、①新規予算を中心とした平成19年度専修学校関係予算、②専門士・高度専門士の称号付与状況、③教育基本法改正を受けての中央教育審議会の動向、④1条校化への対応等について説明。また、中込会長が、文部科学省の第4期中央教育審議会『教育振興基本計画特別部会』、『大学分科会』、『生涯学習分科会』の各委員、並びに内閣府の『キャリア教育等に係る有識者との懇談会』の有識者として参画していることを報告した。出席者と新規予算の採択時期、1条校化のスケジュール、公共職業能力開発施設との役割分担等について質疑応答を行い、公務により退

席した。

議長は会長指名により、福田筆頭副会長が就任し、議長が会議の有効な成立を確認した後、議事録署名人に岡本比呂志常任理事と岩崎幸雄常任理事を選出し議事に入った。

【第1号議案 平成19年度事業計画原案（審議事項）】

秋葉英一理事・総務委員長が、『運動方針（基本方針、重点目標：①専修学校の1条校化に向けた制度設計の取りまとめと法律改正の実現、②専修学校及び各種学校の振興に向けた主要な諸施策の実現、③専修学校及び各種学校と他の学校種との格差の是正、④専修学校及び各種学校に対する激甚災害法の早期適用、⑤専修学校及び各種学校と他の学校種に対する認可の要件・取扱い等の相違点の研究、⑥職業教育の重要性等に対する対外的な啓発活動の推進、⑦専修学校及び各種学校に対する各省庁施策の充実、⑧専修学校及び各種学校の職業教育機能等の充実・向上及び社会的信頼の確保、⑨全国及び各都道府県協会等の組織強化と課程別設置者別部会の活性化』について説明した。

続いて川越宏樹1条校化推進担当副会長が、『専修学校の1条校化運動の推進（制度検討関連、制度啓発関連、渉外折衝関連）について、『事業活動の推進に向けた専修学校等振興議員連盟とのより一層の連携』、『会議の開催』を事務局が説明した。次に秋葉総務委員長、齋木寛治理事・財

務委員長、栗谷川悠理事・組織委員長が、『各委員会活動方針』を、『職業教育の日』の推進、『広報活動の一層の推進』を事務局が説明した。

本議案に関して質疑はなく、出席者全員異議なくこれを拍手承認した。

なお、2月の理事会開催基準日の曜日は、第4番目の水曜日から木曜日に変更となった。

【第2号議案 平成19年度収支予算原案（審議事項）】

齋木財務委員長が、1条校化推進運動の強化及び「職業教育の日」の推進などの予算原案立案方針及び収支予算書案にもとづいて各科目の明細を説明。（事業活動収入135,430,000円、事業活動支出143,240,000円、事業活動収支差額マイナス7,810,000円。投資活動収入10,000,000円、投資活動支出2,900,000円、投資活動収支差額7,100,000円。予

備費支出2,000,000円、当期収支差額マイナス2,710,000円、前期繰越収支差額27,729,606円、次期繰越収支差額25,019,606円。）

本議案に関しては、「協会運営費の増額の経緯」に関する質疑応答が行われたほかに意見はなく、出席者全員異議なくこれを拍手承認した。

なお、来賓として大西英男全専各連推薦参議院比例代表候補者が、議案審議途中に駆けつけ「我が国の職業教育機関の中核である専修学校及び各種学校の教育振興のために全力を尽くす」旨、力強くあいさつを述べた。

【『1条校化運動に関する宣言』の提案及び決議】

中教審特別部会のため理事会に遅参した中込会長があいさつを兼ねて教育振興基本計画の取りまとめにかかる今後の予定を報告。続いて出席者に、『1条校化運動に関する宣

言』を配布朗読し、「ぜひ全専各連理事会の決議を得て、この文書をもって文科省、国会議員の先生方に訴えていきたい」と提案した。質疑応答では「私立学校振興助成法をめぐる対応」について質問が出され、川越1条校化推進担当副会長が「この運動のポイントは私立学校振興助成法の改正をとまなう新たな助成措置の実現を求めないところにある。1条校化を実現する上で経常費助成は求めないことを明確にすることが必要である。しかし、各都道府県での運動と相反することがないように、現行の専修学校及び各種学校に対する助成措置の拡充は求めることを明記した」と答弁した。このほかに意見はなく、出席者全員異議なく理事会の決議とすることを承認した。

また、中込会長から「平成19年度の各地区ブロック会議において、1条校化運動の推進について、1時間ほどの討議時間を設けてほしい」との提案も出され、了承された。

引き続き、「平成18年度事業中間報告」、「平成18年度ブロック会議の決議事項に関する対応」について事務局が配布資料に基づき報告した。

以上により、議長が全ての議事の終了を確認し、吉田松雄副会長が閉式の言葉を述べ、理事会の全日程を終了した。

1条校化運動に関する決議

いま、国民の各層、子どもから大人まで、「働く」ことについて真剣に考えることが問われています。

我々、専修学校及び各種学校の教育に携わる者は、自ら、我が国の“職業教育の路”を切り拓き、「働く」ことの意味や大切さを教え、「働く」ことを介して社会を支える人を育ててきました。

「働く」ことをめぐる教育のあり方が注目されるなか、国は教育基本法を改正し、職業教育の重要性を教育の目標の一つに掲げました。このことは、我々、専修学校及び各種学校にとって、その思いや行いが基本的な理念として謳われた点で誇りであり、引き続き職業教育の最前線で力をふるっていくことへの励みでもあります。

さらに、この改正は、我々、専修学校及び各種学校が求める「専修学校を学校として位置づける」運動に弾みをつけるものであります。加速する教育改革の流れにあって、何よりも専修学校の1条校化が“職業教育の振興”に欠かせません。

新しい年度を目前に控え、全国専修学校各種学校総連合会の重点目標の最優先課題として掲げました専修学校の1条校化、特に、学校の位置づけの根拠となる学校教育法の改正の早期実現について、理事会として改めてここに決意を表明し、以下の方針を決議するものであります。

1. 専修学校を学校教育法の第1条に規定すること。
2. 私立学校振興助成法の改正をとまなう新たな助成措置の実現は求めないこと（ただし、現行の専修学校及び各種学校に対する助成措置の拡充は求めること）。
3. 学校教育法以外の法令などに基づく格差については、1条校化の運動と並行的に是正を図ること。

平成19年2月21日

全国専修学校各種学校総連合会第104回理事会
会長 中込三郎

文部科学省 平成19年度専修学校関係予算案

平成19年度の政府予算案が12月24日に閣議決定され、専修学校関係予算案は、対前年度比1,272万円（0.95%）減の13億26百万円となった。

新規予算として「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」に対し、7億68百万円が計上された。事業の内容は、①専修学校からの計画を審査する委員会の設置、②若者の再チャレンジ支援プログラム（高度専門職育成教育コースや専門・技術職育成教育コースなど、特性等に応じた教育プログラムを開発し若者を対象に実施する）、③社会人のキャリアアップ教育プログラム（スキルアップ・専門技術習得コース、管理能力向上コース、起業家コースの講座について、中高年を対象に実施する）、④女性の再チャレンジ支援プログラム（スキルアップ講座、新たなチャレンジのための講座について、女性を対象に実施する）、⑤NPO団体等と連携したニートに対する自立支援プロ

ラム（専修学校において、ニートを支援しているNPO団体等と連携し、社会的自立を目指した職業教育を支援する）、⑥成果の普及、となっている。

また、「専修学校を活用した職業意識の啓発推進」を改組充実し、「専修学校・高等学校連携等職業教育推進プラン」として91百万円が計上された。事業の内容は①審査委員会の設置、②専修学校・高等学校が連携した職業教育の実施（専修学校団体等と高等学校が連携し、高校生に対し、職業観・勤労観の育成や適切な進路選択ができるよう、多様な職業とその職業に就くために必要な知識、技能、資格等の事例紹介や、参加者の志向・適性に応じた実践的な職業体験講座を専修学校において実施する）、③専修学校の機能を活かした職業体験講座等の実施（専修学校の機能を活かして、子どもたちが実践的な職業技術・技能を体験できる職業体験講座等を各地で開催する）、となっている。

平成19年度 専修学校関係予算案について

文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課

[単位:百万円]

専修学校関係予算額(案)	18年度予算額 1,326 (1,338)
	[対前年度 △12,720千円(0.95%減)]

<内訳>

1 専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業(新規) 【大学・専修学校等における再チャレンジ支援推進プラン】 新たなチャレンジを目指す若者、中高年、女性、ニート等を支援するため、専修学校の持つ職業教育機能を活用して、それぞれの特性等に応じた職業能力向上のための学習機会の提供を行う。 (事業概要) ・若者の再チャレンジ支援プログラム(新規) 若年早期就職者等の再チャレンジを支援するため、これまでの社会人経験を活かした専門的職業教育のためのカリキュラムの提供、カウンセリング等の再就職支援のための教育プログラムを開発する。 ・社会人のキャリアアップ教育プログラム 定年をむかえ退職する中高年が再就職を目指すためのキャリアアップ教育の機会を提供する。 ・女性の再チャレンジ支援プログラム 子育て等のために就業を中断した女性を対象にしたキャリアアップ教育の機会を提供する。 ・NPO団体等と連携したニートに対する自立支援プログラム 専修学校において、ニートを支援しているNPO団体等と連携し、社会的自立を目指す職業教育を支援する。	768 (0)
2 専修学校・高等学校連携等職業教育推進プラン 【※「専修学校を活用した職業意識の啓発推進」から改組充実】 高校生の自主的な進路選択など、若年者の職業意識の涵養を図るため、高等学校と連携した意識啓発のための職業教育等を実施する。	91 (54)
3 専修学校教育重点支援プラン 社会的要請の高い課題に対応する教育内容や方法等についての重点的研究開発を「研究指定校」として指定した専修学校に委託し、その成果を全国に普及する。	445 (451)
4 専修学校教育等の運営改善に関する調査指導 専修学校教育の課題についての調査及び研究協議等を実施するとともに、専修学校に関する最新の情報を提供するためのガイドブックを作成・配布。	21 (25)
前年度限りの経費	0 (808)

(他局計上分)

○ 私立学校施設整備費補助金 ・専修学校大型教育装置整備費補助 専門学校(専修学校専門課程)の教育装置・学内LAN装置の整備費について補助。	297 (300)
○ 私立大学等研究設備整備費等補助金 ・専修学校情報処理関係設備整備費補助 専門学校(専修学校専門課程)の情報処理関係設備の整備費について補助。	941 (950)
○ 専修学校教員研修事業等補助 財団法人専修学校教育振興会が行う教員研修に対する補助。	13 (15)
○ 国費外国人留学生制度 専門学校(専修学校専門課程)における国費留学生の計画的受入れを整備。	787 (758)

理事会に先立ち第3回常任理事会で議案審議

2月21日、東京都・アルカディア市ヶ谷において第3回全専各連常任理事会を開催した。

中込三郎会長が開会にあたりあいさつを行い、続いて会則第32条により中込会長が議長に就任し議事に入った。

審議事項として理事会に提出する「第1号議案 平成19年度事業計画原案」、「第2号議案 平成19年度収支予算原案」の各提案事項について審議を行い、提案どおり理事会

に上程することとなった。また、中込会長が「1条校化運動に関する宣言」について提案・説明し、私立学校振興助成法をめぐる対応について協議を行った後、理事会への提案・決議を行うことを了承した。

最後に理事会の議事運営として議長について協議を行い、会長指名により福田益和筆頭副会長が就任することを了承した。

全国学校法人立専門学校協会理事会を開催

2月22日、東京都・アルカディア市ヶ谷を会場として全国学校法人立専門学校協会の理事会が開催された。出席者は委任状を含め59名。小泉凱彦副会長の開式の言葉に続き、中込三郎会長が中教審教育振興基本計画特別部会の取りまとめにかかる今後の予定を報告。「全専各連と連携し、専門学校の”学校”としての位置づけの明確化のため、1条校化を早期に実現することが本協会の最重要課題である」と開会あいさつを述べた。

次に来賓の大西英男全専各連推薦参議院比例代表候補者が、「我が国の職業教育の中核を担う専門学校の振興のため全力を尽くす」と力強くあいさつを述べた。

続いて、寺門成真文部科学省専修学校教育振興室長が、新規予算を中心とした平成19年度専修学校関係予算、専門士・高度専門士の称号の付与状況、教育基本法改正を受けての中央教育審議会の動向、専門学校の1条校化への対応等について説明を兼ねてあいさつし、公務により退席した。

議長は、会則により中込会長の指名で小泉副会長が就任。議長が会議の有効な成立を確認し、議事録署名人に中西義裕常任理事と重里徳太常任理事を選出して議事に入った。

【第1号議案 平成19年度事業計画原案（審議事項）】

【第2号議案 平成19年度収支予算原案（審議事項）】

第1号議案、第2号議案について一括審議を行い、第1号議案については、岡本比呂志常任理事・総務運営委員長

が配布資料に基づき『運動方針（基本理念、基本方針、活動方針）』を説明。川越宏樹全専各連1条校化推進担当副会長が『学校法人立専門学校の1条校化運動の推進（制度検討関連、制度啓発関連、渉外折衝関連）』を説明し、中込会長が前日の全専各連第104回理事会で決議された「1条校化運動に関する宣言」を朗読、趣旨説明を行った。

続いて浦山哲郎理事・総務運営副委員長、齋木寛治常任理事・財務委員長、武田哲一常任理事・留学生委員長が『各委員会活動方針』を説明。また、事務局が『会議の開催』、『調査研究事業の実施』、『研修事業の実施』、『広報活動の推進』、『専門学校におけるスポーツ振興』について説明した。

第2号議案については、齋木常任理事・財務委員長が、1条校化推進運動の強化及び「職業教育の日」の推進などの予算編成方針と各科目の内容を説明。両議案に関しては、特に質疑はなく、出席者全員異議なくこれを拍手承認した。

なお、2月の理事会の開催基準日は、「第4番目の金曜日」に変更となった。

以上により、議長が全ての審議事項が承認されたことを確認した後、事務局が平成18年度事業中間報告を行った。

最後に磯村義安副会長が閉式の言葉を述べて、理事会の全日程を終了した。

なお、理事会前に常任理事会が開催され、上記の提出議案の審議を行った。

入学辞退者に対する授業料の取り扱いについて

入学辞退者に対する授業料等及び諸会費等の取扱いについては、昨年、11月27日及び12月22日の2度にわたり、最高裁判所は「3月31日までに入学を辞退した者については、原則として返還する義務を負う」旨の判決を下しました。

この判決を受けて、12月28日、文部科学省は「大学、短期大学、高等専門学校、専修学校及び各種学校の入学辞退者に対する授業料等の取扱いについて（通知）」を関係各所に発出しております。

既に、最高裁判所の判決及び文部科学省の通知に則った取扱いを募集要項で明確にしている会員校もありますが、

「納付された学費は一切返金しない」など不適切な表記を行っている会員校も多く見られるとの指摘もあり、今後、都道府県所管課から文部科学省の通知等を踏まえた具体的な措置を求められることも十分に想定されます。

つきましては、専修学校及び各種学校に対する社会的な信頼を保持するために、文部科学省の通知等の趣旨に従い、適切な対応をお願いいたします。

文部科学省の通知及び本文書は、本連合会のホームページに掲載しておりますので、必要に応じてご確認ください。

<http://www.zensenkaku.gr.jp/news/jugyouryou0701.pdf>

キャリア教育充実発展への功績を文科大臣が表彰 (社)神奈川県専修学校各種学校協会

平成18年11月25日、(社)神奈川県専修学校各種学校協会の行っている「仕事のまなび場」「仕事のまなび場Jr.」「チャレンジスクール」等の活動が、キャリア教育の充実発展に尽力し、顕著な功績を挙げたことが認められ、

文部科学大臣より表彰を受けられました。謹んで、お知らせ申し上げます。

詳しくは、以下のホームページをご覧ください。

<http://www.senkaku.or.jp/wn/hyosyo2.html>

本人確認法施行令改正における 入学金等の取り扱いについて

平成18年12月、「本人確認法施行令の改正」について、特に入学金等の取り扱いのQ & Aが金融庁のホームページにアップされました(以下、関係部分を抜粋)。

Q 6 入学金を振り込む時の本人確認はどうすればよいのでしょうか？

A 6 10万円を超える入学金を現金で振り込む場合には、本人確認が必要となります。指定の振込用紙とともに、振込みの手続きを行う方の本人確認書類をご用意のうえ、金融機関の窓口を利用してください。

つまり、保護者の方が振込みを行う場合には保護者の本人確認書類が、学生の方が振込みを行う場合には学生の本人確認書類が必要になります(入学金とは授業料を含む学生納付金という解釈です)。

これまでは、保護者が学生に代わって振り込む時は、保護者と学生の両人の本人確認が必要と解釈されていましたが、保護者の本人確認だけで足りることになりました。

なお、詳しくは、金融庁のホームページに掲載されていますので、下記を参照ください。

<http://www.fsa.go.jp/policy/honninkakunin/index.html#situmon>

専門学校留学生 9年ぶりに減少

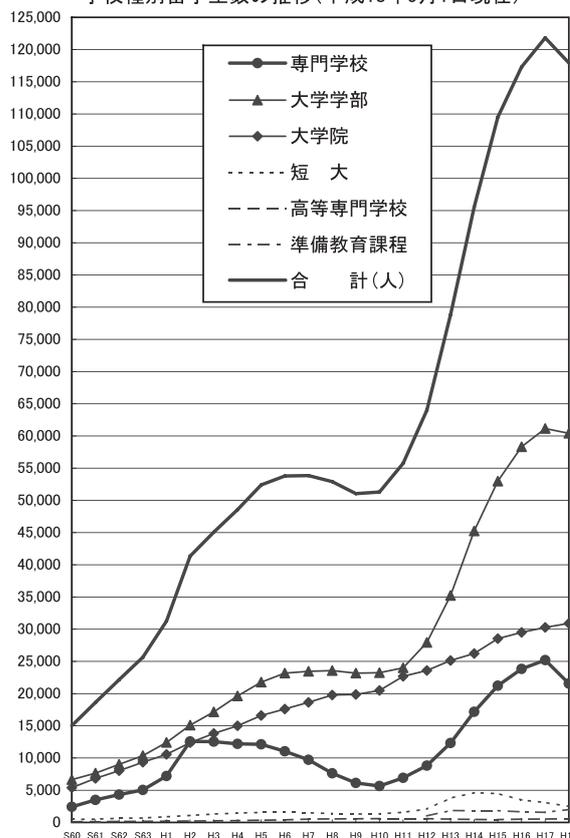
平成18年度の留学生受け入れの概況が、平成18年12月(独)日本学生支援機構から公表された。専門学校に在籍する留学生は21,562人と前年度比で3,635人(14.4%)減少した。

留学生数全体では117,927人と前年度比で3,885人(3.2%)減少した。我が国の高等教育機関で受け入れている外国人留学生は、平成9年度以来9年ぶりに減少に転じた。平成18年5月現在、大学等が63,437人で1,337人(2.1%)減少、大学院が30,910人で632人(2.1%)増加、準備教育課程が2,018人で455人(29.1%)増加した。

出身国別でみると、中国が74,292人で6,300人(7.8%)

減少、2位の韓国は15,974人で368人(2.4%)増加、3位の台湾は4,211人で77人(1.9%)増加した。この上位3カ国で留学生全体の80.1%を占めている。

学校種別留学生数の推移(平成18年5月1日現在)



第13回全国専門学校 バレーボール選抜優勝大会

第13回全国専門学校バレーボール選抜優勝大会(全国専門学校体育連盟、全国専門学校バレーボール連盟主催、全専各連後援)が平成18年12月22日から24日の3日間、埼玉県・草加市スポーツ健康都市記念体育館で開催された。

男子6チーム、女子8チームで優勝が争われた。結果は以下のとおり。

【男子の部】優勝：関東選抜A、準優勝：関西選抜、第3位：北海道選抜

【女子の部】優勝：関東選抜A、準優勝：関西選抜、第3位：関東選抜B

第22回全国専門学校卓球選手権大会

第22回全国専門学校卓球選手権大会（全国専門学校体育連盟、全国専門学校卓球連盟主催、文部科学省、全専各連後援）が平成18年11月30日から12月1日の2日間、東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場で開催された。

全国から予選を勝ち抜いた、約120名が参加。団体戦の結果は以下のとおり。

<男子の部>優勝：福岡県（公務員ビジネス専門学校）、準優勝：東京都A（日本ウェルネススポーツ専門学校）、第3

位：愛知県A（名古屋工学院専門学校、トヨタ名古屋整備専門学校）、愛知県B（同）

<女子の部>優勝：東京都B（日本工学院八王子専門学校、アクト情報ビジネス専門学校）、準優勝：東京都A（東京総合美容美容専門学校）、第3位：愛知県B（大原簿記専門学校、あいち造形デザイン専門学校、安城生活福祉高等専修学校）、兵庫県（関西総合リハビリテーション専門学校）

第15回全国専門学校ロボット競技会

第15回全国専門学校ロボット競技会（全国専門学校情報教育協会、専教振主催、文部科学省、経済産業省ほか後援）が、平成18年12月17日、東京都・工学院大学専門学校アトリウムで開催された。

大会テーマは「スチールファイト」。全国から14校70チームが参加し、自慢のロボットを競い合った。主な結果は以下のとおり。

<有線型ロボット対戦競技>優勝：浜松情報専門学校（静岡県）ロボット名：ロングホーン、準優勝：日本工学院八王子専門学校（東京都）ロボット名：CUBE9、第3位：中日本航空専門学校（岐阜県）ロボット名：ガルフ“X”、<自律型ロボット対戦競技：ソフトウェア部門>優勝：日

本工学院八王子専門学校（東京都）ロボット名：ニコハロMIT、準優勝：日本工学院八王子専門学校（東京都）ロボット名：針三本、第3位：日本工学院八王子専門学校（東京都）ロボット名：うみほたる、<自律型ロボット対戦競技：ハードウェア部門>優勝：大阪工業技術専門学校（大阪府）ロボット名：シン、準優勝：日本工学院八王子専門学校（東京都）ロボット名：NEEC-15、第3位：中部大学技術医療専門学校（愛知県）ロボット名：山ちゃん、<2足歩行ロボット競技>優勝：日本工学院八王子専門学校（東京都）ロボット名：飛脚、準優勝：日本工学院八王子専門学校（東京都）ロボット名：楊双 大往生、第3位：日本電子専門学校（東京都）ロボット名：サカタ65X

第19回全国専門学校日本語学習外国人留学生日本語弁論大会

第19回全国専門学校日本語学習外国人留学生日本語弁論大会（全国専門学校日語教育協会主催、全専各連ほか後援）が1月26日、東京都・文化女子大学講堂で開催された。全国から19人が出場。受賞者、テーマは以下のとおり

【最優秀賞】金尊項（韓国）（大阪府・大阪YMCA国際

専門学校）「私の人生を変えた日」、【優秀賞】ペドロ・オルティス・モナステリオ（メキシコ）（大阪府・大阪YWCA専門学校）「言葉の壁」、【審査員特別賞】アボン・アボン・シルビー（カメルーン）（兵庫県・神戸YWCA学院専門学校）「迷信」

「服の日」の記念行事・記念パーティ

2月8日、「服の日」の記念行事が東京都・アルカディア市ヶ谷で開催された。（財）日本ファッション教育振興協会、全国服飾学校協会主催、専教振協力、文部科学省、経済産業省ほか後援。

第22回全国服飾学校ファッション画コンクール表彰式・服飾教育功労者顕彰ならびに記念パーティが行われた。

ファッション画コンクール入賞者・服飾教育顕彰受賞者は以下のとおり。

【ファッション画コンクール入賞者】

▽文部科学大臣賞 田中智子（ドレスメーカー学院）▽経済産業大臣賞 齊藤みゆき（ドレスメーカー学院）▽文部科学省生涯学習政策局長賞 大杉三恵（東洋ファッションデザイン専門学校）、中美都（阪神家政高等専修学校）▽経済産業

省製造産業局長賞 和田真実（阪神ファッション工芸専門学校）、古田有賀里（アン ファッション カレッジ）▽繊維ファッション産学協議会理事長賞 石井絵奈（文化服装学院）、竹山瑞香（阪神家政高等専修学校）▽専修学校教育振興会理事長賞 原田有恵（文化服装学院）、田中咲子（明美文化服装専門学校）▽日本ファッション教育振興協会会長賞 岩村由美（釧路服飾専門学校）、上野咲（阪神家政高等専修学校）▽全国服飾学校協会会長賞 山下莉枝（ディーズファッション専門学校）、岩崎由（高桑服装専門学校）▽優秀賞 米田純子（北海道文化服装専門学校）、吉澤啓輔（二葉ファッションアカデミー）、銭俐蓁（東京ファッション専門学校）、五反田華子（東京田中千代服飾専門学校）、端彩乃（ドレスメーカー学院）、星野賢一（ドレスメーカー学院）、

青木愛友美(ドレスメーカー学院)、来栖絵美子(ドレスメーカー学院)、児玉英里(文化服装学院)、帯谷美里(文化服装学院)、渥美志緒理(文化服装学院)、北川佳代子(文化服装学院)、江川智子(文化服装学院)、趙珉嬉(文化服装学院)、松岡奈緒美(文化服装学院)、野村育(文化服装学院)、遠山輝猛(文化服装学院)、松岡奈津希(文化服装学院)、中嶋理紗(専門学校ファッションカレッジ桜丘)、菊地幸一(東京モード学園)、ウィルヘルム ファンファン(目白デザイン専門学校)、谷原有紀(富山デザイン・ビューティー専門学校)、荒木幸子(専門学校金城ファッションカレッジ)、城村陽子(専門学校金城ファッションカレッジ)、吉田和史(専門学校福井文化服装学院)、尾崎友香(豊橋ファッション専門学校)、廣瀬美佐(名古屋服飾専門学校)、鹿島瑞希(名古屋服飾専門学校)、高羽伊代(名古屋服飾専門学校)、栗野亘(愛知文化服装専門学校)、渡邊裕末(愛知文化服装専門学校)、梅本晴名(中部ファッション専門学校)、大石望(中部ファッション専門学校)、大橋友加里(名古屋ファッション専門学校)、三上由貴(ディースファッション専門学校)、谷岡久美子(東洋ファッションデザイン専門学校)、佐藤真衣(マロニエファッションデザイン専門学校)、遠藤紗織(マロニエファッションデザイン専門学校)、泉亜希(マロニエファッションデザイン専門学校)、寺坂つばさ(大阪文化服装学院)、田中千紘(上田女子服飾専門学校)、石原靖子(上田女子服飾専門学校)、瀧田朋子(上田女子服飾専門学校)、仁科寿美香(神戸ファッション専門学校)、佐野華那子(神戸ファッション専門学校)、青田智美(神戸服装専門学校)、山崎智佳(広島ファッション専門学校)、中村友美(小井手学園広島ファッションビジネス専門学校)、宮村敦(神戸ファッション専門学校)、太田夕貴(サンモードスクールオブデザイン)、中村絵美(山形女子専門学校)、橋本佳奈(横浜デザイン学院)、野田美穂(富山ファッション・カレッジ)、木戸美由起(大垣文化総合専門学校)、川北舞(アン ファッション カレッジ)、岩雲千奈(アン ファッション カレッジ)、鈴木友梨(豊橋ファッション専門学校)、太刀川葵(東洋学園高等専修学校)▽佳作 藤枝恵(北海道文化服装専門学校)、横濱芳美(北海道文化服装専門学校)、村岡直美(北海道文化服装専門学校)、宇塚有理(北海道文化服装専門学校)、北川景子(青森中央文化専門学校)、長内良美(サンモードスクールオブデザイン)、布留川なつ美(宮城文化服装専門学校)、平山美奈子(ドレメファッション芸術専門学校)、佐藤千尋(ドレメファッション芸術専門学校)、石坂麻衣(前橋文化服装専門学校)、宗天植(山口文化服装専門学校)、鈴木誠司(専門学校青山ファッションカレッジ)、川井忍(専門学校青山ファッションカレッジ)、阿尾祥子(織田デザイン専門学校)、加藤千織(華服飾専門学校)、古居さゆみ(華服飾専門学校)、佐藤衣

里子(東京ファッション専門学校)、原山真太郎(東京ファッション専門学校)、小畑英美衣(東京服装文化学院)、井上佳小里(ドレスメーカー学院)、石井綾子(文化服装学院)、長坂理砂(文化服装学院)、伊藤友希(文化服装学院)、植松哲史(弥生ファッションデザイン専門学校)、柳田祐子(弥生ファッションデザイン専門学校)、野中愛子(専門学校武蔵野ファッションカレッジ)、木寺早月(専門学校ファッションカレッジ桜丘)、土屋佳史(東京モード学園)、飯田仁人(東京モード学園)、李桂淑(東京モード学園)、趙京熙(東京モード学園)、小野美波(東京モード学園)、荒木智子(目白デザイン専門学校)、斉藤貴子(横浜 f カレッジ)、阿部恭子(富山ファッション・カレッジ)、山本知佳(福井デザイン専門学校)、市川亜衣(O K A 学園 トータルデザインアカデミー)、山崎麻代(松本衣デザイン専門学校)、シルバ ジルマール(大垣文化総合専門学校)、館野友香理(アン ファッション カレッジ)、永野彩(アン ファッション カレッジ)、増田江里(静岡デザイン専門学校)、中山裕子(豊橋ファッション専門学校)、辻綾乃(名古屋服飾専門学校)、長屋まゆみ(愛知文化服装専門学校)、白河章登(愛知文化服装専門学校)、五十嵐優(中部ファッション専門学校)、吉岡悠(中部ファッション専門学校)、牧野香織(ファッション専門学校常磐女学院)、平野紗登美(ファッション専門学校常磐女学院)、関冨佳(名古屋ファッション専門学校)、増田知美(名古屋ファッション専門学校)、山田里菜(名古屋ファッション専門学校)、村井絵美(名古屋モード学園)、大西由利子(名古屋モード学園)、谷口佳代(鴻池ファッション専門学校)、横田美穂(東洋ファッションデザイン専門学校)、重光星礼(マロニエファッションデザイン専門学校)、向井明日香(マロニエファッションデザイン専門学校)、熊川陽子(大阪文化服装学院)、山本涼子(上田女子服飾専門学校)、一宮摩衣子(関西デザイン造形専門学校)、藤原卓哉(大阪モード学園)、三好優子(大阪モード学園)、歌房史朗(大阪モード学園)、奥藤麻未(大阪モード学園)、高橋華子(大阪モード学園)、岡田多美(専門学校広島アートファッションアカデミー)、小柳豊(広島ファッション専門学校)、戸谷瑠伊(広島ファッション専門学校)、紺田優太(広島ファッション専門学校)、植野李佳(石田あさきトータルファッション専門学校)、井上基世(小井手学園広島ファッションビジネス専門学校)、高田三奈(小井手学園広島ファッションビジネス専門学校)、和田真美(高知文化服装専門学校)、福田麻理子(香蘭ファッションデザイン専門学校)、田頭加南(香蘭ファッションデザイン専門学校)、高倉正典(香蘭ファッションデザイン専門学校)、真子由佳(香蘭ファッションデザイン専門学校)、神谷美由紀(九州ファッション専門学校)、磧本由里子(ヒロ・

デザイン専門学校)、穂多田麻乃(ヒロ・デザイン専門学校)、伊澤愛(ヒロ・デザイン専門学校)、外間鮎佳(沖縄ファッションアート学院)、坂本京子(青森中央文化専門学校)、萩野育恵(磐城学芸専門学校)、小島愛(大宮文化デザイン専門学校)、今井あゆみ(大宮文化デザイン専門学校)、栗原麦穂(川口文化服装専門学校)、尾迫奈津実(川口文化服装専門学校)、鈴木優里香(彰華学園情報文化専門学校)、山本麻衣(中山学園高等学校)、小川愛乃(山本文化服装学院)、V U N G O G H A N (横浜デザイン学院)、南部紫保(横浜デザイン学院)、丸山祐佳(大垣文化総合専門学校)、竹中祐樹(大垣文化総合専門学校)、安井万貴(大垣文化総合専門学校)、栗田いづみ(コロムビア・ファッション・カレッジ)、伊藤枝里子(アン ファッション カレッジ)、伊藤美紀(山本学園情報文化専門学校)、戸田満香(山本学園情報文化専門学校)、真下えりか(高桑服装専門学校)、今井優花(高桑服装専門学校)、齊藤智恵(安城生活福祉高等専修学校)、三宅まゆみ(安城生活福祉高等専修学校)、柴田さと(明美文化服装専門学校)、加藤麻紀(サンデザイン専門学校)、小田紋歌(サンデザイン専門学校)、泉由真(阪神家政高等専修学校)、板倉菜緒(鴻池学園高等専修学校)、太和美(東洋学園高等専修学校)、堀脇汐美(美芸学園高等専修学校)、松本亜矢子(美芸学園高等専修学校)、越智春乃(小井手広島ファッションビジネス専門学校)、大田李沙(小井手広島ファッションビジネス専門学校)、黒木聖美(向洋学園高等専修学校)

【服飾教育顕彰受章者】

▽服飾教育文化章 杉山節子(茨城県)、和氣知子(栃木県)、中島薫(群馬県)、坂本昌子(千葉県)、武藤とみ(東京都)、渡邊幸子(東京都)、能森靖子(富山県)、平山啓子(静岡県)、下村郁子(三重県)、辻順子(滋賀県)、早瀬せつ子(兵庫県)、喜田美恵子(香川県) ▽服飾教育功労章 谷内真佐子(北海道)、青木鈴子(宮城県)、浅沼良臣(埼玉県)、徳永郁代(東京都)、小林良子(東京都)、相場千枝(東京都)、朝日恵子(福井県)、島田正樹(長野県)、百瀬仁(長野県)、黒坂フサノ(愛知県)、三輪田初子(愛知県)、松本清(兵庫県)、後藤代子(広島県)

文部科学省人事異動のお知らせ

文部科学省において、以下のとおり人事異動がありましたのでお知らせいたします。

平成19年1月15日・生涯学習政策局長・田中壮一郎氏→加茂川幸夫氏

平成19年2月1日・専修学校教育振興室第一係長・横田愛氏→浅原寛子氏

第24回全国専門学校 英語スピーチコンテスト

第24回全国専門学校英語スピーチコンテスト(全国語学ビジネス観光教育協会、全専各連、専教振主催、文部科学省ほか後援)が平成18年12月4日、東京都・豊島公会堂で開催された。

全国から学内予選を通過した17人が出場。受賞者、テーマは以下のとおり。

【文部科学大臣賞】横濱美妃子(東京都・専門学校神田外国語学院)「分かり合うために」、【全国語学ビジネス観光教育協会理事長賞】藤原咲(大阪府・大阪外語専門学校)「もう一つの日本の顔」、【毎日新聞社賞】岡田実和(愛知県・トライデント外国語専門学校)「あなたは多数派?少数派?」、【入賞】財木加奈(福岡県・専門学校麻生外語観光カレッジ)「現代教育と社会への影響」、伊庭貴子(東京都・日本外国語専門学校)「壊れた人形」、【特別賞】園部早苗(福岡県・専門学校西鉄国際ビジネスカレッジ)「私のベトナムでの経験」

大西英男氏が大いに語ります



7月の参議院選挙まで5ヶ月弱となりました。本連合会推薦の大西英男氏が全国を遊説してまわっています。各地区で開催される「新年会」「研修会」「総会」などの場で、

専修学校各種学校の振興、1条校に向けてのビジョンを大いに語っています。

また2月14日、待望の新事務所開きを行いました。場所は西新宿、東京都庁の近くの「住友ビルB1」で、開所式には専修学校各種学校関係者を始め、各支援団体や国会議員、都議会議員、区議会議員など200名が参加しました。

さらに翌15日は、東京都・赤坂プリンスホテルでの自民党主催の各種団体懇談会(1,500名)に出席し、登壇して力強く候補者宣言をしました。

朗報です。大西英男後援会長に専修学校等振興議員連盟の名誉会長、森喜朗衆議院議員が就任されました。

専教振だより

財団法人専修学校教育振興会

<http://www.sgec.or.jp>

J 検 <http://www.sgec.or.jp/jken>

B 検 <http://www.sgec.or.jp/bken>

J 検 情報処理活用能力検定平成18年度後期試験 受験状況・結果

平成18年度後期試験 情報処理活用能力検定（J 検）（文部科学省後援）が下記のとおり実施された。受験状況・結果は次のとおり。

■情報活用試験 3 級期日指定方式 B 日程 （1 月28日～2 月3 日実施）

出願団体数	46団体
出願者数	1,392名
受験者数	1,309名
合格者数	1,077名
合格率	82.3%

■情報システム試験（2 月4 日実施）

出願団体数 112団体

基本スキル

出願者数	3,847名
受験者数	3,343名
合格者数	1,045名
合格率	31.3%

プログラミングスキル

出願者数	2,526名
受験者数	2,134名
合格者数	1,035名
合格率	48.5%

システムデザインスキル

出願者数	2,315名
受験者数	2,039名
合格者数	859名
合格率	42.1%

情報システム試験分野別結果

システムエンジニア認定

出願者数	2,405名
認定者数	688名
認定率	32.5%

プログラマ認定

出願者数	2,859名
認定者数	758名
認定率	31%

■情報デザイン試験（2 月4 日実施）

出願団体数	65団体
出願者数	2,279名
受験者数	2,105名

情報デザイン試験分野別結果

ビジュアルデザイン分野認定

出願者数	816名
受験者数	753名
認定者数	287名
認定率	38.1%

インタラクティブメディアデザイン分野認定

出願者数	479名
受験者数	452名
認定者数	211名
認定率	46.7%

プレゼンテーションデザイン分野認定

出願者数	529名
受験者数	493名
認定者数	202名
認定率	41%

B 検 第21回ビジネス能力検定 受験状況・結果

平成18年12月3日（日）に文部科学省後援第21回ビジネス能力検定（B 検）が実施された。受験状況・結果は次のとおり。

出願団体数	389団体
会場数	340会場
出願者総数	33,340名
3 級	出願者数 25,717名
	受験者数 23,677名

合格者数	17,744名
合格率	74.9%
2 級	出願者数 7,019名
	受験者数 6,182名
	合格者数 2,755名
	合格率 44.6%
1 級(1 次)	出願者数 604名
	受験者数 533名

合格者数	116名	合格者数	92名
合格率	21.8%	合格率(最終)	17.3%
(2次) 受験者数	130名		

第61回評議員会を開催

平成18年12月12日、東京都・アルカディア市ヶ谷を会場として、正副理事長同席のもと専教振第61回評議員会を開催した。出席者は委任状を含め23名。

開会に当たり鎌谷秀男理事長があいさつを述べ、議長に平田眞一評議員を選出。議長一任により議事録署名人に千葉茂評議員と黒木亮谷評議員を選任し、議長が会議の有効な成立を確認した後、議事に入った。

【第1号議案 役員改選の件】

鎌谷理事長が、正副理事長で選考した理事及び監事の候補者を提案した後、正副理事長が退室。評議員による審議

により全会一致で次の役員を選出した。

理事（18名・敬称略）：吉田松雄、千葉雅保、江島清彦、八文字敏宏、中島利郎、小林光俊、多忠和、倉内史郎、岩崎幸雄、中村徹、八木和久、鎌谷秀男、福田益和、稲葉豊、坪内孝満、大橋啓一、佐竹茂市、高山哲信。

監事（3名・敬称略）：細谷秋男、齋藤力夫、角田喜文。

議長による議案審議の終了確認後、配布資料に基づき事務局が平成18年度事業の中間報告を行い、議長が閉会を宣言し、全日程を終了した。

第90回理事会を開催

1月30日、東京都・アルカディア市ヶ谷を会場として、専教振第90回理事会を開催した。出席者は委任状を含め17名。

鎌谷秀男理事長が開会あいさつを述べた後、寄附行為の規定により理事長が議長に就任。議長一任により議事録署名人に多忠和理事と小林光俊理事を選任し、議長が会議の有効な成立を確認し議事に入った。

【第1号議案 理事長・副理事長・常務理事の選出】

互選により全会一致で次の理事長、副理事長及び常務理事を選出した（敬称略）。

理事長（1名）：鎌谷秀男。副理事長（2名）：八文字敏宏、稲葉豊。常務理事（4名）：中村徹、八木和久、福田益和、大橋啓一。

【第2号議案 評議員の選出】

鎌谷理事長が、正副理事長による評議員候補者推薦に関する協議経過を説明し、24名の候補者を推薦。協議の結果、全会一致で次の24名の評議員を選出した（敬称略）。

宮崎善昭、龍澤正美、菅原一博、岡本比呂志、秋葉英一、千葉茂、山口広泰、井戸和男、小野紘昭、舟本奨、岩谷伸一、渡辺敏彦、浦山哲郎、黒木亮谷、齋木寛治、磯村義安、中西義裕、田中幸雄、長川泰次郎、平田眞一、大麻正晴、古野金廣、田中由視、川越宏樹。

理事長による議案審議の終了確認後、配布資料に基づき事務局が平成18年度事業の中間報告を行い、理事長が閉会を宣言し全日程を終了した。

教員と講師のためのビジネス教育研修会

「全ての教育分野、全ての学校でビジネス教育を実践」を目標に、例年全国各地区で開催している本研修は、今年度、全国11会場で開催した。主な内容は、企業が求める人材像についての講演、専門学校の講師陣によるビジネス教育の導入事例、授業での取り組み方、ビジネス能力検定の紹介や指導がポイントとなっている。

本年度下期に開催された2地区の研修内容は次のとおり。

静岡会場 1月30日 静岡県・静岡県私学会館

特別講演「学校に期待するビジネス教育」立石貴子ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル人事部研修支配人

事例発表①「ビジネス実務授業の実際例～B検を活用して～」杉崎みどり（国際観光専門学校）

事例発表②「人間力アップでビジネス能力もアップ」高橋

豊（船橋情報ビジネス専門学校）

検定受験の研究「問題作成の視点から」山崎厚ビジネス能力検定問題作成委員会委員長

【参加者数20名】

愛媛会場 2月20日 愛媛県・ホテルJALシティ松山

特別講演「企業が求める人材像」川井昇（株）アグサス代表取締役社長

事例発表①「学ぶ動機付けと働く動機付け」石田もとな（西鉄国際ビジネスカレッジ）

事例発表②「自分を生かす職場」近藤正二（辻学園調理・製菓専門学校）

検定受験の研究「問題作成の視点から」山崎厚ビジネス能力検定問題作成委員会委員長

【参加者数45名】

管理者研修会を開催

2月5日、専教振・全国学校法人立専門学校協会の共催により、管理者研修会が開催された。会場は、東京都・アルカディア市ヶ谷。受講者は全国から約120名。

中込三郎全専協会長のあいさつに続き、大塚徹夫大塚経営労務研究所代表が「職業意識の涵養とキャリアカウンセリングの重要性」と題し、企業側から見た欲しい人材像、キャリアカウンセリングの必要性和留意点などについて講演。続いて、高橋道文科省生涯学習振興課長が「教育基本法改正をめぐる教育界の動向と今後の展望」をテーマに、昨年12月に改正された教育基本法について、改正に至るまでの経緯や改正のポイントなどについて講演を行った。

講演終了後には懇親会が行われ、盛会のうちに全日程を終了した。

介護福祉教育とビジネス教育を考える研修会

11月15日東京都・ホテルフロラシオン青山、17日大阪府・大阪ガーデンパレスで「介護福祉教育とビジネス教育を考える」研修会を開催した。この研修会は、文部科学省補助事業として平成15年度から17年度の3年間にわたる「介護福祉系専門学校におけるビジネス教育のあり方」プロジェクトの研究調査の経緯・研究成果の報告や介護福祉教育、ビジネス教育をどのように考えるかをディスカッション形式で展開した。

開会あいさつの後、植田美津江（株）日本メディカル総研代表取締役が特別講演「企業からのメッセージ『介護福祉士に求められる条件』」と題し、経営者・管理者として介護福祉士に求められる条件、企業が求める人材、専門学校に期待することなどを講演。続いて研究プロジェクトチームから梶田嘉生（有）教育と情報の研究所代表取締役と久門道利日本福祉教育専門学校副校長が「介護福祉系専門学校におけるビジネス教育のあり方」として3年間にわたって行われた研究調査報告を報告書をもとに行った。最後に岩上広一（福）正吉福祉会世田谷区立きたざわ苑施設長と梶田講師、久門講師らによる鼎談「介護福祉教育とビジネス教育を考える」をディスカッション形式で行い、介護現場の現状と介護教育、ビジネス教育について意見を展開、また参加者からの質疑応答を行い閉講した。

【参加校数：34校】

第11回ビジネス教育事例発表研修会

2月15日、16日の2日間、東京都・アルカディア市ヶ谷を会場に70名の受講者を迎え、第11回ビジネス教育事例発

表研修会が開催された。今回は職業意識の啓発推進事業の取り組みや、介護現場で求められるビジネス教育をはじめ、ビジネス系学校の学習意欲・就業意識向上への取り組み、また医療分野での教育事例、高校や大学のクラス報告などが発表された。

岩谷伸一ビジネス能力検定専門委員会委員長の開会あいさつに続き事例発表が始まった。事例発表のタイトルと講師は次のとおり。

概況報告「キャリアとビジネス教育に関連する各省、各団体の諸施策、諸提言を概括する」菊田薫（財団法人専修学校教育振興会）

特別発表①文部科学省委託事業「専修学校を活用した高校における職業意識の啓発推進事業」新井由夫（（社）沖縄県専修学校各種学校協会）

特別発表②文部科学省補助事業「介護福祉系専門学校におけるビジネス教育のあり方『利用者・家族・地域・職員が笑顔と元気あふれる施設になるために』」岩上広一（世田谷区立きたざわ苑）

事例発表①「コミュニケーション能力をひきだすために」東海林千秋（専門学校盛岡カレッジオブビジネス）

事例発表②「コメディカルに求められる職業人としての資質」三宅わか子（専門学校星城大学リハビリテーション学院）

事例発表③「起業家精神及びコミュニケーション能力の育成」宮内輝久（千葉県立銚子商業高等学校）

特別講演「成長を支える組織と人」中村実（（株）ファーストリテイリング）

事例発表④「大学教育におけるビジネス実務教育導入の試み」大山賢（朝日大学）

事例発表⑤「ビジネス教育とショップワーキング～学生のお店が実践実習の場～」前田亘（岩谷学園アーツティックB専門学校）

事例発表⑥「業界のプロを育てる体当たり授業」牧一郎（中村国際ホテル専門学校）

平成18年度情報教育指導者研修会

2月9日、情報教育指導者研修会（沖縄会場）が、専教振・沖縄県協会との共催により、文部科学省、沖縄県教育委員会、沖縄県情報通信関連産業団体連合会、および沖縄県高等学校長協会の後援を得て、沖縄県・沖縄産業支援センターで開催された。

今回の研修会では、沖縄県における産業界および教育界双方からIT人材育成プログラムについての講演、高等学校・専門学校の現職教員による①スキル差にとらわれない授業展開、②観点別評価の実践、③情報モラルの育て方、をテーマにしたディスカッションが行われ、講演や討議を

通して、参加者それぞれの立場で、教育機関の連携の必要性などを考える内容で行われた。参加者は高等学校の教職員を中心に約70名。プログラム・講師等は次のとおり。

開会あいさつ 名城政次郎沖縄県会長

特別講演「県のIT関連産業振興の方向性と人材育成」真壁正沖縄県情報通信関連産業団体連合会・沖縄 I T人材育成協議会事業計画WGリーダー、茶谷友以講座運営WGリーダー
特別講演「沖縄県内の情報教育の取り組み」石垣有三沖縄県教育庁総務課指導主事

講演「高等学校における情報教育の概況」鈴木洋光(専教振) パネルディスカッション「高等学校情報教育の現場から～現在と今後一専門学校としての取り組み」コーディネーター：鈴木洋光(専教振)、パネラー：磯崎喜則(日本学園中学・高等学校)、間辺広樹(神奈川県立高浜高等学校)、金城比呂子(沖縄県立普天間高等学校)、知念賢治(沖縄県立美来工科高等学校)、稲垣純一(沖縄県協会(KBC学園))

講演「J検を活用した情報処理技術者試験特例措置の概要」八ツ田亮(専教振)

閉会あいさつ 島袋永伸沖縄県協会研修事業委員長

第20回・第21回色彩士検定試験

第20回色彩士検定試験(3級・1級実技)(全国美術デザイン専門学校教育振興会主催)が平成18年9月10日、全国52会場で実施された。結果は以下のとおり。

<3級>出願者数1,964名、受験者数1,796名、合格者数1,460名

<1級実技>出願者数20名、受験者数20名、合格者7名

また、第21回同試験(3級・2級・1級理論)が1月14

日、全国60会場で実施された。結果は以下のとおり。

<3級>出願者数2,033名、受験者数1,892名、合格者数1,491名

<2級>出願者数423名、受験者数374名、合格者190名

<1級理論>出願者数18名、受験者数16名、合格者数2名

第18回観光英語検定

第18回観光英語検定(全国語学ビジネス観光教育協会主催)が平成18年10月29日(3級、2級、1級1次)、12月10日(1級2次)に実施された。各級の試験結果は以下のとおり。

3級 出願者数4,070名、受験者数3,693名、合格者数2,118名、合格率57.4%

2級 出願者数2,459名、受験者数2,260名、合格者数1,068名、合格率47.3%

1級 出願者数121名、受験者数104名、合格者数43名、合格率41.3%

第35回電卓・ポケコン技能検定

第35回電卓・ポケコン技能検定(全国工業専門学校協会主催)が平成18年11月26日、全国7会場で実施された。結果は以下のとおり。

3級 出願者数44名、受験者数42名、合格者数42名、合格率100.0%

2級 出願者数115名、受験者数110名、合格者数85名、合格率77.3%

1級 出願者数4名、受験者数4名、合格者数2名、合格率50.0%

平成19年度 年間予定日程

役員会・総会等

●全専各連定例総会・理事会

平成19年6/13(木)

東京都・東京ガーデンパレス

●全国学校法人立専門学校協会定例総会

平成19年6/14(木)

東京都・東京ガーデンパレス

●全国個人立専修学校協会定例総会

平成19年6/18(月)

東京都・アルカディア市ヶ谷

●財団法人専修学校教育振興会評議員会・理事会

平成19年6/22(金)

東京都・アルカディア市ヶ谷

●都道府県協会等代表者会議

平成19年11/22(木)

●全専各連理事会

平成20年2/28(木)

●全国学校法人立専門学校協会理事会

平成20年2/29(金)

ブロック会議

●中国ブロック会議

平成19年7/12(木)

山口県山口市・山口グランドホテル

●近畿ブロック会議

平成19年7/19(木)

京都府京都市・ウェスティン都ホテル京都

●九州ブロック会議

平成19年7/27(金)～28(土)

福岡県福岡市・ホテルセントラータ博多

●北海道ブロック会議

平成19年7/31(火)～8/1(水)

北海道函館市・函館国際ホテル

●四国ブロック会議

平成19年8/2(木)～3(金)

徳島県徳島市・ホテルグランドパレス徳島

●中部ブロック会議

平成19年8/23(木)～24(金)

三重県四日市市・四日市都ホテル

●北関東信越ブロック会議

平成19年8/28(火)

茨城県水戸市・ホテルレイクビュー水戸

●東北ブロック会議

平成19年9/13(木)～14(金)

秋田県秋田市・秋田ビューホテル

●南関東ブロック会議

平成19年10/19(金)

山梨県甲府市・ベルクラシック甲府

その他会議

●平成19年度事務担当者会議

平成19年4/19(木)

東京都・アルカディア市ヶ谷

検定試験等

●文部科学省後援・情報検定(J検)

◇平成19年度前期試験

【情報活用試験1級・2級・3級】

平成19年6/17(日)

【情報システム試験・情報デザイン試験】

平成19年9/9(日)

◇平成19年度後期試験

【情報活用試験1級・2級】

平成19年12/9(日)

【情報システム試験・情報デザイン試験】

国民生活金融公庫

「国の教育ローン」のご案内

「国の教育ローン」は、教育にかかる家庭の経済的な負担の軽減と教育の機会均等を図るために、国によって創設された融資制度です。

「国の教育ローン」は、専修学校等の入学時のみならず在学中の教育費用についても取り扱いができることなどから、昭和54年に制度が発足して以来、これまでに延べ400万人の方々にご利用いただいております。

ご利用いただける方は、世帯の年間収入が給与所得者については990万円以内(事業所得者は770万円以内)で、専修学校・各種学校等へ入学・在学される方の保護者です。(ご親族またはご本人様でもご利用いただける場合があります)

▽ご融資金額＝学生・生徒お1人につき200万円以内

▽お使いみち

学校に入学・在学するために必要となる次の資金

○学校納付金(入学金、授業料、施設設備費など)

○受験にかかった費用(受験料、受験時の交通費・宿泊費など)

○アパート・マンションの敷金・家賃など

○教科書代、学習用品費、パソコン購入費、通学費用、学生の国民年金保険料など

(注) 1. 1年分の費用が、ご融資の対象となります。

2. 入学資金については、入学される月の翌月末までの取扱となります。

▽利率＝2.3%(平成19年2月9日現在)

▽返済期間＝10年以内(交通遺児家庭・母子家庭の方は11年以内)

▽据置期間＝在学期間内で元金のご返済を据置くことができます。(ご返済期間に含まれます)

▽返済方法＝毎月元利均等返済(ボーナス時増額返済、ステップ返済も可)

▽保証＝(財)教育資金融資保証基金または連帯保証人1名以上

* (財)教育資金融資保証基金による保証をご利用いただく場合は、別途保証料(年1.0%相当分)が必要です。

▽お申し込み窓口＝国民生活金融公庫各支店または最寄りの金融機関の窓口

お問い合わせは、国民生活金融公庫の教育ローンコールセンターまで。また「国の教育ローン」に関する情報を、24時間対応が可能な「国の教育ローン」テレフォン・FAXサービスでご提供しております。

●教育ローンコールセンター 0570-008656(ナビダイヤル)
ナビダイヤルがご利用いただけない場合 03(5321)8656

●テレフォンFAXナンバー 東京 03(3242)8739
名古屋 052(222)8739
大阪 06(6541)8739

ホームページからお申し込みいただけます。

●ホームページアドレス

<http://www.kokukin.go.jp/>

携帯電話用ホームページアドレス

http://www31.ocn.ne.jp/~nlfc_kyouiku/

平成20年 2 / 3 (日)

●文部科学省後援・ビジネス能力検定 (B検)

◇第22回【2級・3級】

平成19年 7 / 1 (日)

◇第23回【1級1次・2級・3級】

平成19年12 / 2 (日)

●電卓・ポケコン技能検定

◇第36回

平成19年 6 / 24 (日)

◇第37回

平成19年11 / 25 (日)

●色彩士検定

◇第22回【1級実技・3級】

平成19年 9 / 9 (日)

◇第23回【1級理論・2級・3級】

平成20年 1 / 20 (日)

●第19回観光英語検定

【1級1次・2級・3級】

平成19年10 / 28 (日)

【1級2次】

平成19年12 / 9 (日)

その他

●第17回全国高等専修学校体育大会

平成19年 7 / 24 (火) ~ 27 (金)

山梨県・富士北麓公園他

●第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山」

平成19年11 / 2 (金) ~ 6 (火)

岡山県・岡山県総合グラウンド他

平成19年度版「専修学校その教育制度と現状」 発刊のお知らせ

専修学校に関する最新データや制度を解説したパンフレット 平成19年度版「専修学校その教育制度と現状」を発刊いたしました。



本パンフレットは毎年3月に専教振が発刊し、各都道府県協会等、専修学校の入学説明会、研修会等の資料として幅広く活用されております。

ご希望の方は、専教振事務局までご連絡ください。

「疾病補償型学生新保障制度」のご案内

学校管理下の学生生徒の傷害事故等を保障する学生生徒災害傷害保険に加えて、学生生徒の傷害事故、疾病を24時間カバーする疾病補償型学生新保障制度を平成18年3月に財団法人専修学校教育振興会として創設いたしました。

この制度は、傷害治療にともなう諸費用の補償(治療実費、交通費・差額ベット代等)や心筋梗塞、脳疾患、熱中症などの全疾病を担保し、更に学生生徒の保証人に生じた疾病を含む災害を補償することにより、学生生徒をとりまく複雑化した社会のニーズに対応できる内容となっております。

○新保障制度の内容と補償額(学生生徒1人につき7,000円負担の場合)

保険種類	補償金額	補償内容
普通傷害保険	死亡後遺障害150万円 治療諸費用30万円	学生の24時間傷害事故について補償します。医師の治療を要し治療が始まった日から要した健康保険の自己負担額等を治療諸費用保険で支払。
個人賠償保険	死亡後遺障害50万円 賠償責任保険1000万円	偶然な事故により他人を死傷させたり、財物に損害を与え、法律上の損害賠償を負わされたときに賠償責任保険として支払。
学生葬祭保険	葬祭費用保険100万円	学生の傷害及び疾病による死亡を、学校管理下外でも24時間補償して支払。
弔慰金規程費用保険	弔慰金50万円	保証人の死亡に関して、事故によるケガ又は疾病がもとで死亡した場合、葬祭費用保険金を支払。

引き受け保険会社: エース保険株式会社・日新火災海上保険株式会社
代理店運営: 株式会社ジャパン・プロテクト・システムズ

認定事務局

株式会社 ジャパン・プロテクト・システムズ

〒542-0012 大阪市中央区谷町9-1-22 NK谷町ビル

TEL: 06-6191-8100 フリーダイヤル: 0120-396-390

専修学校各種学校 学生生徒災害傷害保険のご案内

財団法人専修学校教育振興会

通学特約を付帯することにより、通学中の傷害事故等も補償できます。

補償内容

学生・生徒の日常の大半を占める、正課中、学校行事中、学校休憩時間中、課外活動中の傷害事故

実習中等の賠償事故

補償金額・掛け金（保険料）

補償内容	正課中		通学中	
	昼間部	夜間部	昼間部	夜間部
死亡保険金	2,000万円	1,200万円	1,000万円	600万円
後遺障害保険金	90万円～3,000万円	54万円～1,800万円	45万円～1,500万円	27万円～900万円
入院保険金	事故の日から180日を限度に1日につき4,000円			
通院保険金	通院日数90日を限度に1日につき昼間部の場合1,200円・夜間部の場合1,000円			
賠償責任保険	対人補償 1名 5,000万円限度/1事故5億円限度 対物補償 500万円限度			
保険期間	昼間部		夜間部	
	通学特約無	通学特約有	通学特約無	通学特約有
1年	440円	700円	450円	630円
2年	770円	1,250円	820円	1,160円
3年	1,120円	1,810円	1,190円	1,680円
4年	1,430円	2,310円	1,510円	2,140円

※半年単位でのご契約も可能です



学校の授業等、学校行事または課外活動への参加の目的をもって、合理的な経路及び方法により、住居と学校施設との間を往復する場合等の傷害事故・賠償事故

インターンシップ活動賠償責任保険

補償の対象者

学生生徒災害傷害保険に加入の学生に限ります

補償金額・年間保険料

学生がインターンシップ活動中に、他人にケガをさせたり、他人の財物を壊してしまった場合に備えた、賠償責任保険制度です。

活動内容	正課・学校行事または課外活動として行われるインターンシップ活動	
補償金額	対人 1名1事故につき 1億円限度	対物 250万円限度 (免責金額5,000円)
保険料(1人につき)	250円	

医療分野学生生徒賠償責任保険

補償の対象者

学生生徒災害傷害保険に加入の学生に限ります

補償金額・年間保険料

「学生生徒災害傷害保険」に付帯されている賠償事故補償においては、「臨床、看護、歯科衛生・技工、診療放射線、理学療法、柔道整復師、あんま、マッサージ、はり、きゅう」などの医療関連実習の際の学生生徒の賠償責任事故が対象外となっていました。平成15年からは、正課および学校行事として行われる学校の管理下(インターンシップ活動も含まれます。)の上記医療関連実習の際の学生生徒の賠償責任事故を補償するコースを新設しました。

支払い限度額	対人 1名につき 1億円限度	対物 1事故につき 1億円限度
自己負担額	なし	
保険料(1人につき)	1,000円	

学校賠償責任保険

補償の対象者

各学校

補償金額・年間保険料

傷害保険と異なり、学校側の過失によって、学生生徒または第三者に対する賠償事故が発生し、学校が法律上の損害賠償責任を負った場合に保険金が支払われる保険制度です。

補償金額	対人 1名につき 5,000万円限度	対物 1事故につき 500万円限度 (免責金額:1万円)
保険料(1人につき)	4月1日～翌年3月31日 42円 (1カ月単位での契約が可能です)	

個人情報漏えい保険

補償の対象者

各学校

補償金額・年間保険料

本保険は、2つの補償で構成されております。
①賠償責任部分: 個人情報の漏えいによって、学校が法律上の賠償責任を負担することによって被る損害をてん補します。
②費用部分: 個人情報漏えい、学校が事故への対応のために支出した必要不可欠な各種費用について保険金をお支払いいたします。

ご契約タイプ	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ	学生生徒数	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ
賠償責任部分 補償限度額 (1請求・期間中)	1,000万円	3,000万円	1億円	～350名	3万円	5万円	10万円
費用部分 補償限度額 (1事故・期間中)	100万円 (縮小てん補90%)	300万円 (縮小てん補90%)	1,000万円 (縮小てん補90%)	351～500名			
自己負担額 (免責金額)	賠償・費用ともに1事故につき 各20万円			501～1,000名			
				1,001名～			

※保険料が記載されていないゾーン(□部分)の保険料については、㈱第一成和事務所までお問い合わせ下さい。

※このご案内は本制度の概要をご説明したものです。詳細は下記までご照会下さい。

【お問い合わせ先】



安心・安全をひろげたい。
マングローブ植林は、
地球の未来に向けた保険です。



私たち東京海上日動は、地球温暖化の原因となるCO2の増加に影響を与えない「カーボンニュートラル」な会社です。ひろく地球全体を「安心・安全」でつづきこむために、当社はこれからもマングローブ植林をつづけていきます。

東京海上日動火災保険株式会社 東京都千代田区丸の内1-2-1 〒100-8050
お問い合わせ先: ☎0120-868-100 平日/午前9:00～午後6:00 (土日・祝日は休日とさせていただきます。)
ホームページアドレス: <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

東京海上日動

東京海上日動火災保険株式会社 公務第2部公務第1課

住所: 東京都千代田区大手町1-5-1 大手町ファーストスクエア WEST11F 電話 03-5223-2607
取扱代理店(株)第一成和事務所 住所: 東京都中央区日本橋本町3-8-3 東硝ビル 電話03-5645-1071

三井住友海上火災保険株式会社



平成19年度 J 検試験日程

情報活用試験 ※文部科学省後援

<前期(一般試験)>
 試験日 平成19年 6月17日(日)
 出願期間 平成19年 4月1日(日)～5月10日(木)
 実施級/受験料 1級 4,000円
 2級 3,500円
 3級 1,500円

<後期(一般試験)>
 試験日 平成19年12月9日(日)
 出願期間 平成19年 9月1日(土)～10月25日(木)
 実施級/受験料 1級 4,000円
 2級 3,500円
 3級 1,500円

情報システム試験 ※文部科学省後援

システムエンジニア認定
 プログラマ認定
 <前期>
 試験日 平成19年 9月9日(日)
 出願期間 平成19年 6月1日(金)～7月13日(金)
 実施級/受験料 基本スキル 2,500円
 システムデザインスキル 2,000円
 プログラミングスキル 2,000円

<後期>
 試験日 平成20年 2月3日(日)
 出願期間 平成19年11月1日(木)～12月13日(木)
 実施級/受験料 基本スキル 2,500円
 システムデザインスキル 2,000円
 プログラミングスキル 2,000円

J 検情報活用基礎 ※団体限定

試験期日A日程 平成19年12月2日(日)～12月8日(土)
 試験期日B日程 平成20年 1月27日(日)～2月2日(土)
 出願期間A日程 平成19年 9月1日(土)～10月25日(木)
 出願期間B日程 平成19年11月1日(木)～12月13日(木)
 受験料 1,500円

情報デザイン試験 ※文部科学省後援

ビジュアルデザイン分野認定
 インタラクティブメディアデザイン分野認定
 プレゼンテーション分野認定
 <前期>
 試験日 平成19年 9月9日(日)
 出願期間 平成19年 6月1日(金)～7月13日(金)
 実施級/受験料 必修共通科目 2,000円
 ビジュアルデザイン 1,500円
 インタラクティブメディアデザイン 1,500円
 プレゼンテーションデザイン 1,500円

<後期>
 試験日 平成20年 2月3日(日)
 出願期間 平成19年11月1日(木)～12月13日(木)
 実施級/受験料 必修共通科目 2,000円
 ビジュアルデザイン 1,500円
 インタラクティブメディアデザイン 1,500円
 プレゼンテーションデザイン 1,500円

「創る」「使う」「伝える」
情報検定 は J 検

このほか、試験に関する情報は順次 J 検ホームページ等に公開していく予定です。
 ホームページURL : <http://www.sgec.or.jp/jken> お問い合わせ : 検定試験センター TEL.03-5275-6336



B 検ナビ OPEN!

<https://www.bkennavi.jp/bken>

B 検の解答解説、授業の事例など情報が盛りだくさん
 B 検HPからアクセスできます

+ B 検喫茶
 B 検用語集
 B 検公開クラス掲示板 など

+ B 検合格塾
 B 検問題解説
 B 検の傾向と対策 など

+ 教員企業向け情報
 ビジネス教育事例集
 B 検の問題ができるまで など

専修学校各種学校生の就職を応援します

文部科学省後援

ビジネス能力検定

<http://www.sgec.or.jp/bken>

平成19年度試験日程

第22回検定実施日 平成19年7月1日(日)

- 実施級 : 2級、3級
- 出願期間 : 平成19年4月1日(日)～5月22日(火)
- 受験料 : 2級3,800円 3級2,800円

第23回検定実施日 平成19年12月2日(日)

- 実施級 : 1級(1次)、2級、3級
- 出願期間 : 平成19年9月1日(土)～10月23日(火)
- 受験料 : 1級6,000円 2級3,800円 3級2,800円



財団法人専修学校教育振興会 検定試験センター

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-9 TEL.03-5275-6336 FAX.03-5275-6969